

## 中国 2019 年の相場展望

2018 年 12 月 21 日

### <米中貿易摩擦は懸念材料も、政府や中央銀行による政策対応が中国経済の下支えに>

2018 年は中国経済の先行き不透明感が強まる環境となりました。中国政府が過剰債務問題に対する規制を強化したことで、民間企業は金融市場からの資金調達が難しくなりました。この結果、企業の投資活動は抑制的になり、工業生産の減速を招きました。また、米中貿易摩擦も中国経済の先行き不透明感を強めました。

2019 年の中国経済は減速が見込まれるものの、GDP(国内総生産)成長率は 6.2%程度の成長を達成できると当社では予想しています。中国は依然として米中貿易摩擦の脅威に晒されていますが、政府や中央銀行による景気対策が経済を下支えすると見込んでいます。2018 年 10 月以降、景気悪化の可能性が強く意識されたことから、中央銀行は緩和的な金融政策を実行しています。また、政府も減税やインフラ(社会基盤)投資など、拡張的な財政政策を導入しており、経済と金融市場の安定化を図っています。中国は一時的に経済成長の下押し圧力に直面しているものの、当局による適切な政策対応により、長期的には安定的な成長が続くと見込んでいます。

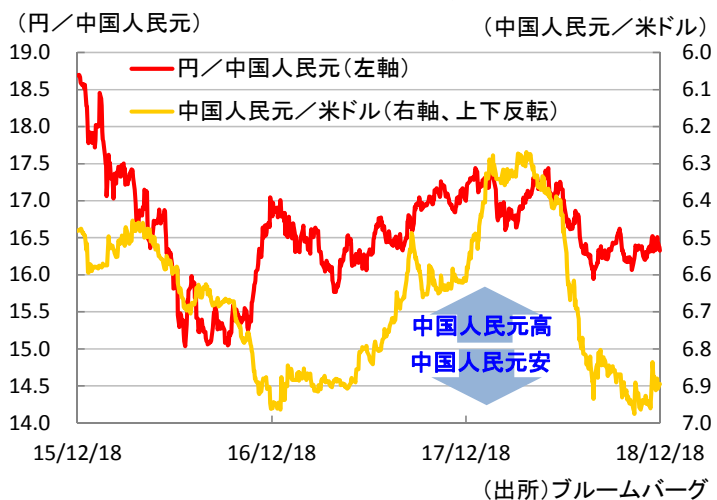
為替市場については、中国人民元の対米ドルレートは 6 月以降、著しく下落しました。この背景には米国の利上げによる米ドル高や米中貿易摩擦の深刻化が挙げられます。また、中国株式市場の下落も中国人民元安に拍車をかけました。一方で、足元では米国株の急落を受けて、FRB(米国連邦準備制度理事会)は金融政策への態度を変化させており、積極的な利上げ姿勢は後退しています。また、政府、中央銀行は中国からの資金流出を強力にコントロールしており、慎重に金融市場の問題解決に取り組んでいます。これらの要素は中国人民元の為替相場を安定させる要因になるとみており、2019 年の中国人民元の対米ドルレートは 6.8~7.3 近辺で安定的に推移すると予想しています。

中国債券市場については、2018 年初より国債金利は低下傾向となっていますが、2019 年もこの傾向が続くと当社では考えています。前述した通り、中央銀行は経済を安定させるために金融緩和を進めており、銀行間市場の流動性は非常に潤沢です。また、米国の利上げ観測の後退に伴って、米ドル高・中国人民元安への懸念も幾分和らいでおり、中国政府による金融緩和の余地は拡大しています。足元の中国のインフレ率は落ち着いて推移していることから、2019 年は国債金利に低下余地があると考えています。

※後述の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をよくお読みください。

## 《為替の推移》

(2015年12月18日～2018年12月18日)



## 《国債金利の推移》

(2015年12月18日～2018年12月18日)



以上

### 当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management